



「〇〇あります」

「なんかおもしろい本ない？」「たくさんありますよ」という会話を利用者の方とよく交わします。なかなか幅の広い質問ですが、色々とお話をお聞きして（レファレンスインタビューと言います）、ご希望のジャンルや作家などを絞り込み、すぐに借りていきたいのならその時書架にある本を、少し待ってもいいのであれば他館から借り受けるという形で対応しています。返却時に「おもしろかった」と言っただけだと職員としてもお役に立ててうれしく思います。

❖ 「今ならあります」

市立図書館には、毎月テーマを決めそれに沿った本を展示するコーナーがあります。少し前の話になりますが、花矢図書館では3月のテーマ展示として、その年度に多く読まれた本をランキングにして、ベスト20までを紹介しました。

上位3冊は以下の通り。

1位『素敵な日本人』（東野圭吾著 光文社）2位『コンビニ人間』（村田沙耶香著 文藝春秋）3位『蜜蜂と遠雷』（恩田陸著 幻冬舎）

いずれも「ありますか？」と聞かれる回数が多く、「貸出中です」と返答する回数が多い本ばかりでした。予約や貸出でひっぱりだこだった上位3冊もようやく落ち着きました。昨年度読むのをあきらめた方を書架にてお待ちしております。

❖ 「そこにある本どう？」

展示している本が貸出中だったりすると、「ここにあった本は？」と聞かれることが多い気がします。花矢では返却本をカウンター後ろのブックトラック（小型の移動書架）にのせ、後でまとめて書架に返しているのですが、その本を見て「それ借りたい」という方もいらっしゃいます。

ほかの方が読んだ本は面白そうに見えるのでしょうか。実際に「間違いないはず！」とおっしゃって借りていかれたり、私たち職員も、貸出や返却の時に気になった本を今度借りようと思ったりします。

栗盛と田代ではその日の返却本を利用者の方が自由に手にとって借りていけるようコーナーを設けています。そういった場所は広い書架から探すよりも手軽に色々なジャンルの本を目にすることができ、内容にも期待が持てるので案外オススメです。

❁ 「こんな本あります」

多く借りられていく本がある一方、魅力的なのになぜか手にとってもらえず、書架に埋もれてしまった本が結構あります。タイミングなのでしょう。そんな本を引っ張り上げて「こんなおもしろい本あったんだ。気付かなかった」とおっしゃる運の良い方もおられました。

こういった本を見つけると思い出す言葉があります。インドの学者・ランガナタン博士が提唱した図書館学の五法則のうちの3番目「いずれの本にもすべて、その読者を」というもの。皆さんも「その読者」になってみませんか。そんな本たちも書架にてひっそりとお待ちしております。

❁ 「ありました！」

「〇〇という本が読みたい」と依頼を受け検索しているうちに、その方の読みたい本が自分の読みたい本になってくる時があります。見つけた時は内心の高揚を抑えながら貸出や予約の手続きをし、次絶対借りようと心にメモを取ります。最近もそんな本に出会いました。『もしぼくが本だったら』（KTC 中央出版）という栗盛記念図書館所蔵の絵本です。本も色んなことを考えているのかな？ 花矢の本はどんなことを考えているんだろう、自分に当てはまる「もし」はなんだろう、と思わせる絵本です。興味を惹かれた方はぜひお読みください。（花矢 た）